



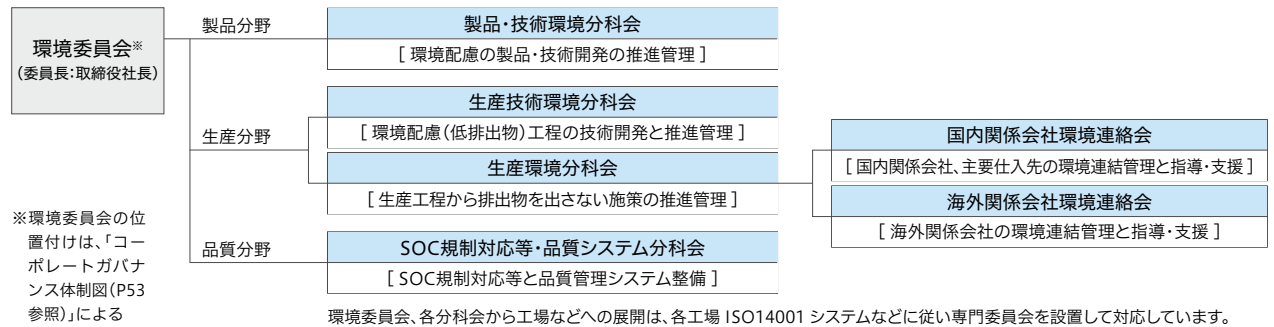
推進組織

環境に関する中長期方針や重要な取り組み事項は、社長を委員長とする「環境委員会」で審議・決定しています。「環境委員会」の下部組織は、製品・生産・品質の分野で構成される4つの分科会があります。さらに、分科会の下部組織には、エネルギー使用量・廃棄物量・VOC排出量の低減や

環境保全活動などを推進するワーキンググループを設置し、専門的な視点から環境保全や管理を行っています。

また、国内外の関係会社との情報共有の場として連絡会を設けています。

環境組織体制図



気候変動・資源枯渇に関する「リスク」と「機会」

気候変動・資源枯渇に関する「リスク」と「機会」を重要な経営課題と認識しています。異常気象の深刻化や降雨パターンの変動、渇水や洪水による経済、生産活動への影響など、財務的かつ社会全体やサプライヤーへのリスクに対し、法規制や動向を踏まえ、グローバルな視点で対応強化を図っています。

	リスク	機会
気候変動	炭素税やエネルギー価格の高騰によるコスト増	軽量化、次世代カー部品開発省エネ促進によるコスト低減
資源枯渇	水不足、水害による生産活動への影響	水の再利用、使用量削減によるコスト低減
	材料調達難、材料価格の高騰によるコスト増	リサイクル技術、材料使用量の減少によるコスト低減
マネジメント(法規制順守)	法違反などの環境問題、環境保全に対する取り組み不足から生じる企業の信頼失墜	環境活動の強化によるブランド力の向上

事業活動における資源投入と環境排出

エネルギー、材料などの投入資源を少なくし、製品としてのアウトプットの極大化を図るために、商品開発力、工法開発力、現場の改善力を活かし、事業活動を通じた改善

に取り組んでいます。

また、投入資源も、環境に配慮した材料、クリーンエネルギーを活用しています。

INPUT

総物質投入量	45,974t	ゴム(練生地)	17,820t
樹脂	28,154t	購入部品、金属、液体は除く	
総エネルギー投入量	308万GJ ^{※1}	重油	1万GJ
購入電力	156万GJ	灯油	2万GJ
都市ガス	131万GJ	LNG	12万GJ
LPG	6万GJ	ガソリン	0.1万GJ
水資源投入量	138万 ^m	上水	26.8万 ^m
工業用水	73.7万 ^m	地下水	37.5万 ^m
PRTR ^{※2} 対象物質使用量	800t		

OUTPUT

製品			
大気への排出			
CO ₂	12.9万t-CO ₂	NOx ^{※4}	88t
6ガス	0.3万t-CO ₂	ばいじん	0t
SOx ^{※3}	0t	PRTR対象物質排出量	115t
		VOC ^{※5} 排出量	371t
廃棄物などの排出			
埋立廃棄物量	0t	一般廃棄物量	12t
焼却廃棄物量	7t	有価物量	5,464t
産業廃棄物量	10,995t	PRTR対象物質移動量	61t
排水			
総排水量	89万 ^m	窒素排出量 ^{※6}	9.7t
PRTR対象物質排出量	0.15t	リン排出量 ^{※6}	0.6t
		COD排出量 ^{※6}	4.8t

※1 ギガジュール(1,000,000,000)
 ※2 Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録制度)

※3 硫酸酸化物
 ※4 窒素酸化物

※5 Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

※6 対象範囲: 春日・稲沢・平和町・瀬戸の4工場、北島技術センター、美和技术センター、サンコート井之口